

# 平成29年度 姉妹校等留学プログラム

## エレノア・ルーズベルト高校訪問

### (1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

神奈川県立横浜翠嵐高等学校／海外研修（2名）

### (2) 渡航先

国／都市：米国／メリーランド州グリーンベルト

外国の高校：エレノア・ルーズベルト高校

### (3) 期間

平成30年3月12日～平成30年3月22日（11日間）

### (4) プログラムの趣旨・目的

姉妹校であるアメリカ合衆国メリーランド州エレノア・ルーズベルト高校を訪問することによって、姉妹校交流を一層発展させるとともに、日米間の文化や生活などの違いを学び、相互理解の基礎を築くことを目的とする。

### (5) 活動内容

- 日米間の文化や生活の違いを学ぶために、姉妹校が立地するアメリカ合衆国メリーランド州のほかに、メリーランド州近郊のワシントンD. C. 及びニューヨークも視察する。
- 事前研修においてアメリカの歴史や日本文化について学習。英語で日本文化を紹介するプレゼンテーションを行う。
- 相手校に滞在中は、相手校の生徒宅にホームステイし、学校では授業に出席。また、放課後は、日本語クラブの活動絵の参加や部活動の見学などを通して、相手校の教育活動を幅広く体験する。
- 歓迎式典にて「竹取物語」の英語劇を発表し、クラスコンペティションにてダンスパフォーマンスを披露することで、現地の学生との交流を深める。
- 帰国後の報告会を全校生徒及びPTA・同窓会役員を対象に行い、訪問の成果を広く普及予定
- 平成30年6月に来校するエレノア・ルーズベルト高校の生徒との交流に備え、学校の中心となって準備していくとともに、文化祭期間中には、姉妹校との交流を伝えるスペースを設置し、広く、近隣住民をはじめ、市民と交流を深める予定。

## (6)実績・成果

○派遣高校生 NTさん

### ・「自分から発信できる人間」

アメリカに行って、沢山のことを知る。その経験の中で、自らホストファミリーに何かを伝える機会なんて、ないと思っていた。しかし、会話とは互いの考え方や思いを「伝え合う」ことで、そこに一方的な学びなど存在しなかった。

ホストのLさんは日本語のクラスを取っていなくて、家族も日本語は全く話せなかった。

「いただきます」のない食事に、「ここはアメリカなんだ」と思いながらも食事を始めた。しかし食事中、Lさんはふと思い出したように私に言った。「日本では食事の始めに挨拶をするんだよね、忘れてた!」と。そこで、食事の始めに「いただきます」と食べ物への感謝を込めて言うことを伝えた。「ごちそうさま」もついでに。滞在中、食事の度に忘れかけながらも、笑顔で、家族揃って手を合わせることで、文化を伝えることの素晴らしさを、肌をもって痛感した。

そこだけ切り取ると完璧な体験をしたようだが、後悔もある。「いただきますやごちそうさまは、お菓子を食べるときにも言うの?」と聞かれたときのことだ。とっさに、「meal (食事)の時にしか言わないよ」と言ってその場を終えたが、「なぜお菓子を食べるときは言わないのか」は言えなかった。また、後からよく考えてみれば、例えば食事でなくても、誰かのお家を出されたちょっとしたお菓子には「いただきます」と言うし、食事でもファストフードには「いただきます」と言うことは少ない。日常に紛れて何気なく過ごしていたことだが、もっと考えておけばよかったと思った。

誰かと会話をする上で、一方通行なことなど、ありえないと思う。学ぶことがあり、伝えることがある。学びたいならば伝えられなくてはならない。自分のしていること全てに意味があり、当たり前とは人によって変わるものだと、改めて実感することができた。自分からは何もせず、沢山学ぼうと思っていた自分に、強く言いたい。自分から発信できる人間になれ、と。

○派遣高校生 MSさん

### ・「GRACIAS」

「うちは、Spanishの家系なんだ!!」

私のホストファミリーは南米をルーツに持つ、スペイン語を話す家族でした。ホストファザーはコロンビア、ホストマザーはエクアドルの出身で、おばあさんはスペイン語しか話せません。最初は軽く考えていましたが、実際彼らの家に入って生活してみると、言語の壁は想像以上に大きく、私の前に立ちはだかりました。車の中では、親子の会話がスペイン語で進んでいきます。食事中、彼らが笑っていても、何を喋っていて何がどう面白いのか、私にはわかりません。特に、私とおばあちゃんのコミュニケーション手段は、ジェスチャーのみでした。ホームステイが始まって数日、私はどう振舞っていいかわからず困惑し、「他の家が良かった」とさえ思っていました。

しかし、日数を重ねていくうちに、わたしの考えは変わりました。

朝ごはんは、とうもろこしやタピオカを原料とするパンなど、主に彼らの故郷の食べ物でした。日本や彼らの故郷について話していくうちに、日本との共通点もたくさん見つかりました。彼らも、日本のホルモンと同じように動物の内臓を食べるようです。英語を介さないと会話ができなかったおばあちゃんと、ジェスチャーなどで意思疎通が図れたこともありました。とてもうれしかったです。

日中のルー校では、アメリカンスタイルで現地の生徒のものの考え方やエネルギッシュな雰囲気に触れ、家では主に南米の文化を感じながら、私はホームステイの約1週間、他とは一味違った濃い時間を過ごすことができました。

語学力向上はもちろん大切です。しかし、今回の研修を通じて私は、異なる文化を受け入れ、学び、交流するという、根底にある重要な部分を学ぶことができたのです。

このような貴重な経験ができたのは、ホストのEさんをはじめとするLさん一家のおかげです。本当にありがとう。Gracias。

ルー高生のリーダーであるKさんが、お別れのスピーチの中でこんなことを言っていました。

「This is just beginning of our friendships.」私はこの一言に感銘を受けました。

私たちは、今回の研修を通じて「知り合った」にすぎません。Kさんも言っていたように「Nice to meet you」なのです。私たちは、翠嵐の代表としてこの姉妹校交流をより発展させていく責任があるし、個人としてこれからもより親交を深めていくことができるでしょう。

私は将来、必ずアメリカに行き、そしてルー高生を訪ねたいです。もしも、ルー高生が日本に来た時には、どこにでも飛んでいきます。それくらい素晴らしい人たちに出会うことができました。

非常に短い11日間の研修でしたが、私の中のいろんなものが変わりました。人と人とのつながりを、世界にはいろんな人がいるということ、肌で感じました。だからこそ、私の誇れること、私のやりたいこと、私らしさを見つけていくことが、重要なのだと思います。

今後、この貴重な経験を生かし、いつか成長した自分で、胸を張って、アメリカに帰りたいと思います。

みんな待っててね!ありがとう。